

国際交流への入り口は、意外と身近に！

札幌国際プラザ

レッツトークプログラム

外国人と気軽に会話を楽しむ交流プログラムです。英語、中国語、日本語、ハングル、ロシア語、ドイツ語で実施しており、日本語とドイツ語は月2回、そのほかは週1～2回実施しています。参加無料。



和やかな雰囲気が進みます

各国を知るセミナー

お隣の北東アジア地域の国々への理解を深めるため、中国、韓国、ロシアの文化や国際情勢を知る講演会を実施しています(23頁に掲載)。



「ロシアの結婚」といった興味深いテーマで行われます

会場・詳細 国際プラザ (中央区北1西3札幌MNビル3階) ☎211-2105

天神山国際ハウス

外国から訪れた研究者などの宿泊施設。宿泊者と市民が交流できるサロンがあるほか、宿泊者が自分たちの国を紹介する講演会などを年に3回程度開催しています(24頁に掲載)。



宿泊者による講演会

所在地・詳細 天神山国際ハウス (豊平区平岸2の17) ☎823-1000

留学生交流センター

外国人留学生に低料金で宿舎を提供する施設です。交流ラウンジや軽スポーツ室があり、地域の方との交流の場ともなっています。



留学生が母国について紹介します

留学生による母国紹介セミナーも実施しています(24頁に掲載)。

所在地・詳細 留学生交流センター (豊平区豊平6の6) ☎817-3615

※国際交流関連のお知らせは23・24頁もご覧ください。

学校でも異文化理解の取り組みが

宮の森小学校2年生の授業におじゃましました

9月5日、宮の森小学校(中央区)2年生の生活科の時間で、本市のディーナ・ヘレガン国際交流員による特別授業が行われました。

まずは、アメリカと日本の学校の違いに関するクイズ。「アメリカの学校には掃除当番があると思う人」という問題に考え込みます。答えは「No」。正解の子供たちはガッツポーズを決めていました。「アメリカでは、学校の職員が教室を掃除します。でも、自分たちで掃除をする日本の子供たちは、本当に素晴らしいと思います」とヘレガン交流員。大きくうなずく子供たちの真剣なまなざしが印象的でした。

その後、スライド上映や、英語を使ったゲームなどを行い、最後は子供たちからヘレガン交流員に「小さな世界」の歌をプレゼント。一部は英語で歌いました。

こうした国際交流員による授業のほかにも、小中学校と市立高校には外国語指導助手が派遣されており、さまざまな交流が行われています。

ディーナ・ヘレガン

国際交流員

アメリカ・オレゴン州出身。高校から日本語を学び、大学では東洋学を専攻。平成12年から現職。



「家に入る時、靴を脱がない」というような身近な違い一つでも、子供たちからは素直な驚きが返ってきます。考え方の柔軟なうちに違う文化について学ぶ意味はとても大きいと思います。



アメリカの学校の話に「へー」と声を出す子供たち

この表現は、かつて所得水準の向上や航空路の整備により海外旅行が一般化し始めたころにもよく使われました。そして今、インターネットの普及に代表される情報通信技術の発達には、私たちの生活を変え始めています。パソコンさえあれば、自宅にいながら外国の人と映像のやりとりもできる時代。世界は加速度を増して再び狭くなっているといえます。

特に札幌のような大都市では、外国からの商品や芸術・文化に触れる機会も多く、それが直接生活に大きな影響を与えることも少なくありません。また、国境を超えた企業間競争が激化する中、地元企業にはそれに対応する力を身に付けることや、それをチャンスに結び付けることが求められています。

「異文化を知ることで自分の幅を広げたい」「ビジネスで勝ち残るために国際感覚を身に付けたい」。国際交流への一歩を踏み出すきっかけは人によってさまざまです。皆さんも、身近な「国際化」への入り口を探してみませんか？